

名古屋市文化振興事業団 昭和文化小劇場 劇場パートナー公演

名古屋昭和交響楽団

Nagoya Showa Symphony Orchestra

第3回定期演奏会

J.シベリウス

交響詩「フィンランディア」

Jean Sibelius : Finlandia

R.グリエール

ホルン協奏曲 変ロ長調

R. Glière : Concerto for Horn and Orchestra in B-flat major

I. Allegro

II. Andante

III. Moderato - Allegro vivace

*** 休憩 20分 ***

J.シベリウス

交響曲第2番 二長調

Jean Sibelius : Symphony No. 2 in D major

I. Allegretto

II. Tempo andante, ma rubato

III. Vivacissimo

IV. Finale: Allegro moderato

- 指揮……………水戸 博之
- ホルン……………向 なつき
- 客演コンサートマスター ……平光 真彌
- 管弦楽……………名古屋昭和交響楽団

ご来場の皆様へお願い ～クラシックコンサートをお楽しみいただくために～



演奏中の私語は
ご遠慮ください。



演奏中には
物音がしないよう
ご配慮ください。



携帯電話や
時計のアラームは
お切りください。



録音・録画・写真撮影は
お断りしております。



客席内での飲食は
禁止されています。



早すぎる拍手や
ブラボーはご遠慮ください。

ごあいさつ

本日は、ご多忙の中、名古屋昭和交響楽団第3回定期演奏会-光の射す方へ-にご来場いただき、誠にありがとうございます。皆様からの大きなご支援により、おかげさまで本日、第3回定期演奏会を開催することができました。今日という日が迎えられましたのも皆さまのご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

本日は指揮に全国で活躍中の水戸博之先生をお招きしてシベリウス交響曲第2番を始めとする名曲に取り組むプログラムをお届けします。

また本演奏会の2曲目では当団として初めて協奏曲にチャレンジをします。ソリストとして愛知室内オーケストラにて活躍中の向なつき先生をお迎えしてホルン協奏曲を演奏します。

名古屋昭和交響楽団は2019年4月に昭和文芸小劇場を拠点に地域にオーケストラの魅力や音楽の楽しさを伝えるために発足し、皆さまのご支援のもと、コロナ禍の中でも3回の演奏会を開催することができました。

本日の公演に向けて、団員一同、限りある時間を使い、今回取り組む作品に思いを込め、練習してきました。これまで積み重ねてきた練習の成果を発揮し、皆さまに演奏を楽しんで頂ければ幸いです。

最後になりますが、本日まで熱心にご指導をいただきました客演指揮の水戸博之先生、客演コンサートマスターの平光真彌先生、オーケストラトレーナーの岡田望先生ならびに名古屋市文化振興事業団昭和文芸小劇場の皆さま及びご理解、ご支援をいただいております全ての皆さまにこの場をお借りしまして厚く御礼申し上げますとともに、今後とも名古屋昭和交響楽団の地域に根差した活動を応援いただけますようお願い申し上げます。

名古屋昭和交響楽団 団長 加藤 裕文

本日は、「名古屋昭和交響楽団第3回定期演奏会」へのご来場誠にありがとうございます。

「名古屋昭和交響楽団」は定期演奏会やアウトリーチ活動を通じて昭和区の地域の皆さまに音楽の楽しさ、魅力を届けていच्छゃいます。そして劇場には、文化芸術を活用して、地域課題に対して取り組むことが求められており、コミュニティーの希薄化が進む中、昭和文芸小劇場もその形成と再生のためのコーディネート機能を強化しています。

このような状況のもと、名古屋昭和交響楽団と昭和文芸小劇場は「劇場パートナー」として、活動を共にすることでその目的を達成するためのプログラムに取り組んでいます。

今年度は、美術館や公園でのアウトリーチコンサートやファミリー向けコンサートなどを企画し身近に音楽に触れる機会を創出し、文化芸術が活きるまちづくりへの貢献を続けてきました。次年度以降もこのような活動の充実化を図ってまいります。

今回の定期演奏会は、新型コロナウイルスの収束が見通せない中、日々の練習を、感染拡大防止に努めながら進めてこられた名古屋昭和交響楽団さまのご尽力のもと、収容率100%でのご入場で開催することができました。

どうぞ、名古屋昭和交響楽団の日頃の活動の集大成である定期演奏会を、充分にお楽しみください。

名古屋市昭和文芸小劇場 館長 森川 治朗

Profile

指揮

水戸 博之



1988年北海道出身。東京音楽大学、及び同大学大学院作曲指揮科(指揮)を卒業。これまでに指揮を患上淳一、汐澤安彦、田代俊文、加納明洋、三河正典各氏に、ピアノを奥山優香、北島公彦、米田栄子、野田清隆各氏に、音楽理論を伊左治直氏に師事。在学中、サントリーホール主催レインボウデビューコンサート21に出演。千葉県東総文化会館「東総の第九」にて東京音楽大学シンフォニーオーケストラを指揮。また、井上道義指揮者講習会にて優秀者に選抜され、入賞者によるリレーコンサートにてオーケストラアンサンブル金沢、金沢大学管弦楽団を指揮。これまでに札幌交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、読売日本交響楽団、神奈川フィルハーモニー交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、中部フィルハーモニー交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、広島交響楽団などに客演。副指揮として日生劇場、藤原歌劇団のオペラ公演に参加する他、新国立劇場合唱団、東京混声合唱団の合唱指揮を務める。現在、オーケストラトリプティーク常任指揮者、東京混声合唱団コンダクター・イン・レジデンス、八王子ユースオーケストラ副指揮者。NHK交響楽団より2016年度のパーヴォ・ヤルヴィ氏のアシスタントに任命され、同団の公演に携わる。

ホルン

向 なつき



石川県出身。2014年愛知県立芸術大学卒業。東京藝術大学別科修了。在学中愛知県立芸術大学音楽学部第44回定期演奏会に成績優秀者として出演。フレッシュコンサート2012inKANAZAWAにてグランプリを受賞。2014年音大卒業生による第14回ヤマハ管楽器新人演奏会に出演。2014年JHQサマーキャンプソロコンテストにて1位受賞。2015年IHS Premier Solist Competitionにて1位受賞。Cor Ensemble VENUS、Quintette Pointilléメンバー。これまでに下村健治、大野良雄、竹村淳司、日高剛、野々口義典、西條貴人、伴野涼介、守山光三の各氏に師事。現在、愛知室内オーケストラ団員。

客演コンサートマスター

平光 真彌

岐阜県立加納高等学校音楽科を経て、愛知県立芸術大学音楽学部卒業。2005年、同大学大学院音楽研究科修了。中村桃子賞受賞。ヴァイオリンを青山泰宏、大久保ナオミ、福本泰之、Ewald Danel、服部芳子の各氏に師事。指揮を紙谷一衛氏に師事。第11回日本クラシック音楽コンクール第3位。第1回宗次ホール弦楽四重奏コンクール第1位。併せて、聴衆賞、オーナー賞も獲得。2007年、2010年及び2012年、小淵沢室内楽セミナーにて最優秀カルテットとして「緑の風 音楽賞」受賞。2012年には講師特別賞も同時受賞。これまでにソリストとして、多数の協奏曲をオーケストラと共演。在学中、2000年から岐阜管弦楽団、2004年～2021年3月まで愛知室内オーケストラのコンサートマスターを務めた他、神戸室内合奏団などの客演コンサートマスターを務める。愛知県立芸術大学非常勤講師。



オーケストラトレーナー

岡田 望

名古屋芸術大学器楽科(トランペット専攻)卒業。同大学研究生修了。トランペットを星順治、亀島克敏、栃本浩規の各氏に師事。古楽器奏法を竹本義明、マイケル・レアードの各氏に師事。チャールズ・シュルター、ジョゼフ・ドキシ、ジェームス・トンプソンのマスタークラスを受講。大学在学中より、NPO法人中部フィルハーモニー交響楽団に在籍し、14年間オーケストラプレイヤーとして活動する。2013年、同団を退団。演奏活動と同時に、指揮法、スコアリーディングを古谷誠一、稲垣雅之の両氏に師事し、コンクールバンドから市民オーケストラまで数多くの団体のトレーニングコンダクターを歴任している。基礎理論と自身の演奏経験に基づいた指導が評価され、幅広いジャンルのトレーナーとして音楽活動の場を拡げている。

管弦楽

名古屋昭和交響楽団

名古屋市昭和区を活動拠点にオーケストラの魅力や音楽の楽しさを伝えるため2019年4月に発足。2019年-2020年には名古屋市文化振興事業団の「ぶんしんパートナーシップ」団体として活動し、2021年4月より昭和 cultura 小劇場の劇場パートナーとして活動。新型コロナウイルス禍においても感染予防につとめながら活動を続け、2020年に第1回定期演奏会、2021年には第2回定期演奏会と第1回サマーコンサートを開催。劇場パートナーとして昭和 cultura 小劇場の支援を受けながら地域に愛されるオーケストラとして活動している。



Program Notes

J. シベリウス 交響詩「フィンランディア」

Jean Sibelius : Finlandia

国民的名曲

フィンランド出身の作曲家シベリウス(1865～1957)による、祖国愛にあふれた曲です。作曲当時フィンランドは帝政ロシアからの独立運動が行われており、「民衆の愛国心を高める曲」として民衆からもロシア当局からも注目されました。

重苦しい序奏1、せめぎ合うように音が衝突する序奏2、華やかで輝かしい中間部、美しい賛歌、と短い時間の中にドラマチックな内容が凝縮され、終結部は賛歌の壮大なコーラルによって締めくくられます。

優しく穏やかな賛歌には歌詞がつけられ、フィンランドの第二の国歌のように愛されています。その美しさは単に民族意識高揚の粹に留まらない普遍的なものがあり、日本でも複数の訳詞が存在するほどです。



[5]用
Wikipedia フィンランディア
(堀内敬三氏の歌詞あり)



[5]用
合唱団ノア フィンランディア
(原語の対訳歌詞、関忠亮氏の歌詞、久野静夫氏の歌詞あり)

R.グリエール ホルン協奏曲 変ロ長調

R. Glière : Concerto for Horn and Orchestra in B-flat major

演奏する名曲、隠れた名曲

アマチュアオーケストラにとって、協奏曲はプロ演奏家の名人芸を目の当たりにしながら一緒に演奏できる喜びがあります。そして、ただ伴奏だけでなくオーケストラ側にもかっこいい場面があれば、さらに張り切ることも間違いなしです。さしずめ「演奏する名曲」とでも言いましょうか。有名どころでは、ドヴォルザークのチェロ協奏曲、ラフマニノフのピアノ協奏曲2番、ブラームスのバイオリン協奏曲等がそうだと思います。そして、今回のホルン協奏曲。正直、先述の曲ほど有名ではありません。事実、ホルンパートを除く多くの団員はこの曲の存在すら知りませんでした。しかし、練習が始まってすぐに、これもまた「演奏する名曲」であると皆が確信していきました。

グリエール(1875～1956)は帝政ロシア末期～ソヴィエト連邦建国期の作曲家です。近い年代の同朋の作曲家には、先述のラフマニノフ、スクリャーピン、グラズノフらがいます。ストラヴィンスキーやショスタコーヴィチは強すぎるほどの個性で有名ですが、グリエールは伝統的で親しみやすい作風を重んじていると思います。

作曲を依頼したのはヴァレリー・ポレフ(1918～2006)、ボリショイ劇場管弦楽団の首席ホルン奏者でした。グリエールが作曲したバレエ「青銅の騎士」のリハーサルで出会ったのがきっかけだったようです。初演は1951年、翌1952年にはグリエール自身の指揮・ポレフの独奏により録音され、それは今でも聴くことができます。

快活で時に流れるような第1楽章、ゆったりした第2楽章、ご機嫌で疾走感のある第3楽章、で構成されます。伝統的な構成に沿って第1楽章にはカデンツァ(独奏者のみによる腕の見せ所)が配置されています。



【引用】
Wikipedia カデンツァ

J.シベリウス 交響曲第2番 二長調

Jean Sibelius : Symphony No. 2 in D major

シベリウスっぽくないけど名曲

シベリウスの楽曲の個性・特徴として、故郷北欧の風景や神話に例えられることがあります。目的地がわからないようなブリザードが吹き荒れたり、高度が低い故に染み込むような日差しに照らされたり、民族色の強い純朴な歌にあふれたり。交響曲においても、番号が進めば進むほど(特に3番以降)サウンドが純化され楽器編成も簡素化されていき、最後の7番に至っては楽章1つという稀有な構成に凝集されていきます。

今回演奏する2番はもちろん若き日の作品です。1番と並びフルオーケストラが豊かに力強く鳴り響き、伝統的な4楽章で構成される質感たっぷりの曲です。作曲はフィンランドではなく、主に長期滞在中のイタリアのジェノバ郊外で進められました。その風土の影響を受けたのでしょうか、例えばトランペットによるファンファーレは、第2楽章でこそ突き刺さる寒風の

ように厳しいですが、第1・第4楽章ではむしろ明るく高らかに歌い上げられます。旋律ははっきりと聞き取りやすく、全体として親しみやすい曲調となっています。このような特徴が故に、最もシベリウスらしくない交響曲、と言われることがあるほどです。

【第1楽章】

弦楽器のさざ波のようなうねりに乗ってリズムカルな木管楽器や暖かいホルンの和音によって曲が始まります。時折冷涼で厳しい音楽が顔をのぞかせますが、先述のような明るく高らかなトランペットが鳴り響き、ポジティブな雰囲気のまま終わります。

【第2楽章】

この楽章が「最もシベリウスらしい」のかもしれませんが、非常に緊張感が高く厳しい場面がほとんどを占めます。指定テンポはゆっくりで、いわゆる緩徐楽章に分類されますが、全く緩むスキはありません。

【第3楽章～第4楽章】

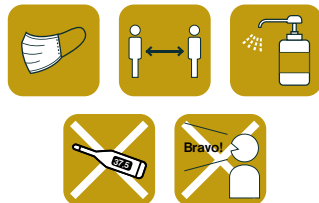
自由気ままに戯れ飛び回る場面と、ゆったりとオーボエが歌う場面とが交互に演奏されたのち、輝く海原に船出するように第4楽章に切れ目なくつながります。さまざまな個性ある旋律とファンファーレが組み合わされながら曲は進行し、第4楽章冒頭の場面を繰り返した後、大きな建物のような壮大なコーラルが響き渡って曲は輝かしく明るいうちに結ばれます。



【引用】
Wikipedia シベリウス交響曲第2番

ご来場のお客様へのお願い

- 入場時の手指のアルコール消毒にご協力ください。
- 公演中も含め館内ではマスクを着用いただき、咳エチケットにご協力ください。
- 熱のある方(37.5℃以上)、体調のすぐれない方は来場をお控えください。
- 入場時の検温にご協力ください。体温の高い方には入場をお断りいたします。
- 公演中のお席の移動はご遠慮ください。
- プラボー等掛け声はお控えください。
- 保健所等関係機関からの要請があった場合には、お客様の情報を開示することがあります。



アンケートへのご協力をお願いいたします

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、WEBにて感想をお聞きしています。
右のQRコードよりアンケートのご協力をお願いいたします。



名古屋昭和交響楽団

@showasymphony @NagoyaShowaSymphonyOrchestra

[Email] showa.symphony@gmail.com

[H P] <https://www.showa-symphony.com>

昭和交響楽団



2019年4月にオーケストラの魅力や音楽の楽しさを伝えるため発足。昭和文化小劇場の劇場パートナーとして劇場からの支援を受けながら地域に愛されるオーケストラとして活動しています。

■練習：年2回の演奏会ではプロオーケストラの第一線で活躍するプロの指揮者をお迎えして高みを目指して演奏に取り組んでいます。通常の練習では、毎回、オーケストラトレーナーの岡田望氏や客演コンサートマスターの平光真彌氏にお越しいただき、アンサンブルの基礎や奏法、演奏マナーや楽典など、独学ではなかなか身につかないことを、プロ演奏者からご指導をいただき、日々の課題をクリアしていくことに努めています。

■活動：年に2回の演奏会(定期演奏会・サマーコンサート)を開催しています。そのほかにも昭和区まちなかコンサート等、行政や名古屋市文化振興事業団主催の諸行事に出演しています。

■団員：主に社会人で構成しています。高校生～60代まで幅広い楽器経験者が、それぞれの貴重な時間をあわせて集まっています。

■練習日：日曜日夕方(18時～21時) 月3回程度 ☆詳細はホームページをご覧ください。

■活動趣旨【設立理念】

当団は、以下の設立理念に則り、演奏活動を通じて文化芸術が活きるまちづくりに貢献することを目的として活動します。

- ① 音楽の好きな区民・市民の楽しみ場、交流の場、活躍の場を創出する。
- ② 音楽を通じて、昭和区の子どもたちに心の豊かさを育む機会を提供する。
- ③ 昭和文化小劇場を拠点として地域との連携をはかり、相互の発展に資する活動を展開する。

■活動方針

設立理念及び活動趣旨を実現するために、以下のとおり活動を進めていきます。

- 多数の作曲家や楽曲を広く紹介する定期演奏会の開催。
- 幅広い世代が楽しめるファミリーコンサートを開催する。
- コン서트会場に限らず必要とされる場所に赴いて音楽を届ける。
- 区内外の各種団体、地域コミュニティ等との連携を図るものとする。
- 音楽と真摯に向き合い、団員同士、明るく、楽しく取り組むものとする。

第2回サマーコンサート 2022 8.21 Sun 名古屋市昭和 문화小劇場

映画音楽からアニメ主題歌までオーケストラを楽しむコンサート!
0歳から楽しめるコンサートも開催します!

入場無料(要整理券)